

九州西岸域で

ミニボートの転覆事故

が多発しています

～楽しいレジャーのためにあなたができること～

転覆事故防止のポイント



令和2年6月発行



〒850-0921 長崎市松が枝町7-29

長崎港湾合同庁舎4階

運輸安全委員会事務局長崎事務所

TEL 095-821-3537 FAX 095-828-1954

～地図から探せる事故とリスクと安全情報～

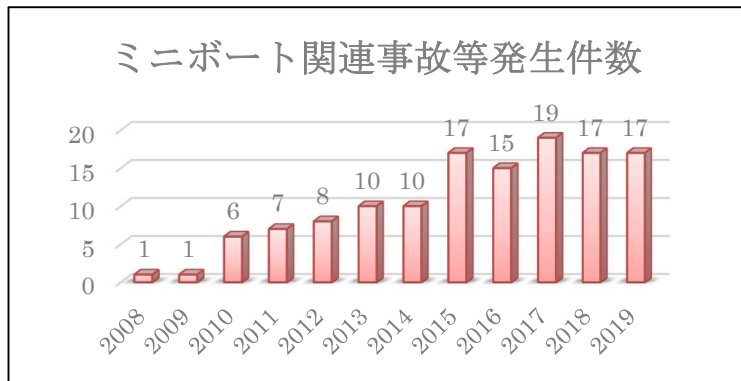


船舶事故ハザードマップ

検索

近年、船舶検査及び小型船舶操縦士免許が不要なミニボート（長さ3m未満・機関出力1.5kW未満）が急速に普及する一方で、その事故も急増しています。

平成20年10月から令和2年1月までの間に運輸安全委員会が公表した船舶事故等調査報告書によれば、ミニボートが関連する事故及びインシデントの発生総数は全国で128件、このうち長崎事務所の管轄区域（九州西岸域）では31件発生しています。この31件を事故等の種類別に見ると、衝突・運航不能・死傷事故等が発生している中で、転覆が約42%で最も大きな割合を占めています。



※「船舶事故ハザードマップ」とは、船舶事故や航行安全に関する情報を世界地図上に表示させる運輸安全委員会によるインターネットサービスです。

九州西岸域は、島々が多数点在するうえ複雑な海岸線をなしており、漁業やマリンスportが盛んな海域となっています。

そこで、事例等を紹介しながら、ミニボートの転覆事故防止に向けたポイントを示していきたいと思ひます。

事例1 波が高いことが分かっていたのに、出発した (熊本県天草市で発生)

Aさんは、1人でミニボートに乗って釣りに出掛け、釣り場に到着してパラシュート型シーアンカーを投入しましたが、波による危険を感じて帰ることにしました。

Aさんがパラシュート型シーアンカーを回収中、右舷正横に波高約1mの波を受けて右舷側が持ち上げられ、ミニボートは転覆しました。

Aさんは、海に投げ出されましたが、救命胴衣を着用しており、ミニボートの船底にはい上がって携帯電話で118番通報を行い、来援した船に救助されました。

Aさんは、出発前に携帯電話で気象情報を入手していましたが、当時、釣り場を含む広い範囲で強風及び波浪注意報が発表されていることを知りませんでした。

《Aさん》

波が高いことは出港前から分かっていたから、無理して出なければよかったなあ・・・



◎ポイント

ミニボートは、風や波の影響を受けやすいので、波が高い場合や風が強い場合は、危険ですから出港を控えましょう。水面から舷側上端までの高さが低いミニボートの場合、一般的に波高20cm以上、風速4m/s（波頭が砕ける・白波が現れ始める）以上は危険と言われています。また、気象情報を入手する際は、警報及び注意報の発表状況等も確かめましょう。

事例2 波が高くなってきたとき、すぐに帰らなかった (熊本県上天草市で発生)

Bさんは、知人と2人でミニボートに乗って釣りをしていましたが、いよいよ風が強くなってきたので帰ることにしました。帰航中、右舷船尾部の舷縁を越えて波が打ち込み、海水が流入して右舷側に傾斜した際、左舷側から波高約1mの波を受けて左舷側が持ち上げられ、ミニボートは転覆しました。

2人は海に投げ出されましたが、救命胴衣を着用しており、付近の養殖いかだに泳ぎ着いていかだに上がり、Bさんが所持していた防水型の携帯電話で海上保安庁に救助を依頼しました。

《Bさん》

近くでゴムボートに乗って釣りをしていた友人から、波が高くなってきたので帰るという連絡を受けたとき、すぐに釣りをやめて帰ればよかったなあ・・・



◎ポイント

ミニボートは、気象や海象の変化に十分注意し、風が強まり、波が高くなる前に、余裕を持って帰りましょう。

事例3 真横から波を受けながら航行した (長崎県佐世保市で発生)

Cさんは、1人でミニボートに乗って釣りをしていましたが、風が強くなったので帰ることにしました。帰航中、波高約1.5mの波を右舷正横付近で受け、右舷側が持ち上げられてミニボートは転覆しました。

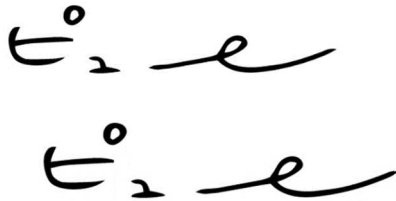
Cさんは海に投げ出されましたが、救命胴衣を着用しており、ミニボートの近くに浮いていたところを、通りかかった船に救助されました。



◎ポイント

事例2と同様に、風波が強まる前に、余裕を持って帰ることが重要です。

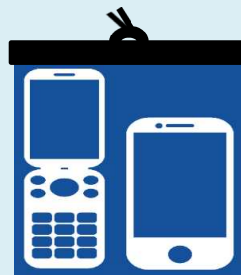
万が一、波が高い海域を航行する場合には、ミニボートは横波に弱いので、波の方向に注意して真横から波を受けないようにしましょう。



この3件の事例では、乗船者全員が救命胴衣を着用していたので、転覆した際に海に投げ出されたものの、体力を温存した状態で救助を待つことができました。



また、防水型の携帯電話を所持していたおかげで、救助要請の連絡が早くできた方もいます。

防水型の携帯電話でも、機種によって防水機能が異なりますので、携帯電話を防水パックに入れておくことをお勧めします。



ミニボートによる転覆事故防止のためのポイントまとめ

- * ミニボートは、風や波の影響を受けやすいので、波が高い場合や風が強い場合は、危険ですから出港を控えましょう。また、気象情報を入手する際は、警報及び注意報の発表状況等も確かめましょう。
- * ミニボートは、気象及び海象の変化に十分注意し、風が強まり、波が高くなる前に、余裕を持って帰りましょう。
- * 万が一、波が高い海域を航行する場合には、ミニボートは横波に弱いので、波の方向に注意して真横から波を受けないようにしましょう。

ハザードマップ (p.2) では、過去の事故情報の他にも、 気象庁の地域気象観測データや  海上保安庁等のライブカメラ映像など、海のレジャーを安全に楽しむための情報を見ることができます。

ミニボートに乗る前には、**ふだん**の気象情報に加え、アクセスしてぜひご活用下さい。



←船舶事故ハザードマップ
モバイル版

ミニボート（長さ3m未満・機関出力1.5kW未満）は、船舶検査も操縦免許も不要ですが、一度海や湖などに出れば、右側通行などの海や湖、川の交通ルールが適用されます。

操縦される方は、このことを認識して安全にミニボートを楽しむための基本知識やマナーを習得するようにしましょう。

参考までに、ミニボートを操縦する際の注意事項などの動画を含んだサイトを紹介します。

- * 国土交通省海事局「ミニボートに乗る前に知っておきたい安全知識と準備」

<https://youtu.be/99D00aR8xOI>

- * 熊本海上保安部「天草の海を安全に楽しむために ミニボート編」

<https://www.youtube.com/watch?v=-8f0hFWo4fY>



地方版分析集

長崎事務所では、九州西岸域で発生した船舶事故等の状況を取りまとめた「地方版分析集」を平成23年から刊行しております。

テーマ	刊行年月日
九州西岸域 まき網漁・棒受網漁に従事する漁業者の皆さん 揚網作業時、サイドローウに腕を巻き込まれて重傷を負う事 故が多発しています！	令和元年11月12日
平戸瀬戸 夜間、北航船が田平港の防波堤に衝突する事故が 後を絶ちません！	平成31年3月18日
安全な旅客輸送のために ～九州西岸における旅客負傷事故 の分析～	平成30年5月18日
航行中の小型船と錨泊・漂泊中の小型船との衝突	平成29年3月31日
九州西岸における居眠り運航事故の状況	平成27年8月27日
平戸瀬戸 夜間の北航船は田平港の防波堤に注意！	平成26年5月30日
平戸瀬戸における乗揚事故の状況	平成25年6月28日
九州西岸における漁船関連事故の状況	平成24年5月25日
九州西岸における漁船・モーターボート事故の分析	平成23年3月28日